友松圓諦（ともまつえんたい）　佛教學者。明治二十八年四月一日愛知縣生れ、昭和四十八年十一月十六日歿（一八九五―一九七三）。幼名春太郎。號諦春。十歳で出家、淨土宗僧侶となる。宗教大學を經て、大正十二年慶應義塾大學文學部史學科卒。歐洲留學後、大正大學、慶大各教授歴任。昭和九年テンオで法句經を講じて反響を呼ぶ。また高神覺昇等と全日本眞理運動を興して機關誌『眞理』を創刊。二十一年神田寺を創建して淨土宗を離脱した。二十九年日本佛教會初代事務總長就任。

著書に、隨筆『不二の世界』（昭和九年二月十五日第一書房）、『父心』（昭和十五年十一月五日偕成社）、『人生の道實』（今著・布施柑治編、昭和十六年）月二十五日宮越太陽堂書房）、『報ゆる心』（昭和十六年四月十一日實業之日本社）、『佛教入門』（昭和十七年四月一日偕成社）、『遺族讀本』（昭和十八年七月十五日全日本眞理運動本部）、『勤皇烈士に學べ』（今著・東京新聞社編、昭和十八年八月二十一日建設社）、『世間虚仮』（昭和二十四年十月十五日誠信書房）等。久世健介著『友松圓諦と眞理運動の客觀的批判』（昭和十年十一月十九日城西出版社）刊。